

【87】「ふれあい」、「にぎわい」、「うるおい」

私、土木屋の習いで河川や鉄道の橋に関心がありますが、先日、東京の神田川で舟に乗っていて、「神田ふれあい橋」という橋の下をくぐりました。

アレと思ったのは、「天王洲ふれあい橋」（運河）と「田端ふれあい橋」（跨線橋）というのを以前から知っていたので、「ふれあい橋」という名はあちこちにあるらしいことです。

改めて調べてみると、都内にはその他にも、江東区の旧中川に「ふれあい橋」、都下に日野市の多摩川の支川、浅川にも「ふれあい橋」というのがありました。

興味深いのは、以上5つのふれあい橋はいずれも歩道橋であることです。

全国を探してみたらよほど沢山のふれあい橋があることでしょう。

橋に限らず地域的な公共施設の名称にふれあいを名乗るのが多いようで、「ふれあいセンター」、「ふれあい会館」、「ふれあい広場」などがあり、民間の施設ですが「ふれあいの湯」があります。

地域の住民の人々が仲良くふれあっていこうという期待の表れでしょうか？

同じような系統の言葉に「にぎわい」というのをこの頃よく見かけます。

”にぎわいの創出”というような言い方で、市街地整備や再開発プロジェクトのスローガンとして用いられる事が多いようです。

先日、日本一混雑している渋谷での再開発プロジェクトの説明に”にぎわいの創出”があったのに驚きました。

これ以上、にぎわってどうするんだと皮肉の一つも言いたくなります。

私の若い頃、インフラ整備や市街地再開発と、環境や景観との調和が叫ばれ出した時代ですが、「うるおい」という言葉が流行し、当時の建設省の施策の説明にも”うるおいの創造”とか

”うるおいを求めて”というような言い方が流行しました。

不肖私も、“うるおいのある河川”とか”うるおいのある街づくり”とか得意になって言ったり書いたりしたのも、気恥ずかしい思い出です。